

# 新型コロナ禍の ふたご子育て状況調査

2020年度調査の報告

安藤寿康（慶應義塾大学文学部）

コロナ元年ともいうべき2020年、日本双生児研究学会では日本多胎支援協会と協力し、このときにしか、このときだからこそ把握し、記録し、分析しておかねばならないコロナ禍のふたごの子育て状況についてアンケート調査を行いました。

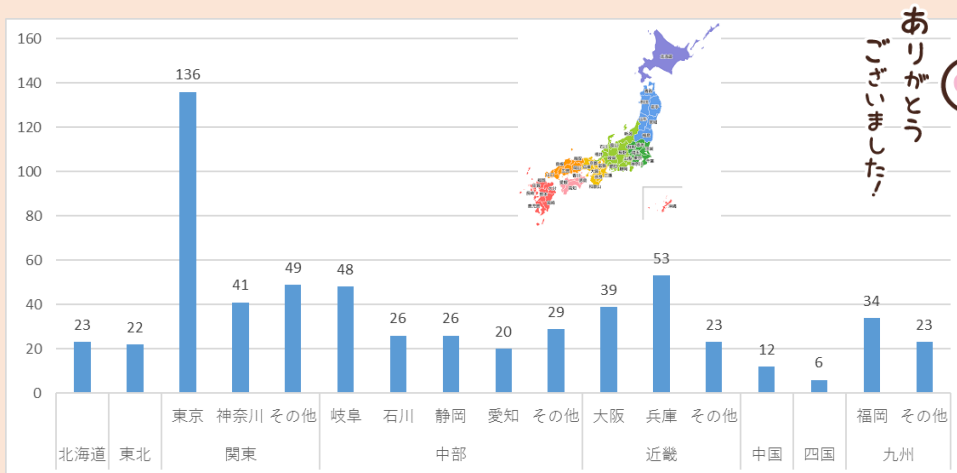
## 調査項目

- 基本情報(居住都道府県、両親・ふたごの生年月日、卵性など)
- 両親の就労状況(第1回自粛前2020年3月まで vs 調査時点)
- 家族の介護状況
- 親の生活状況(経済状況・就寝・起床時間、外出)
- 親のストレス状況
- ふたごの生活状況
- ふたごのストレス状況
- ふたご関係
- 自由記述(ストレス・困りごと・よかったことetc)
- ◆全100項目!!
- ◆成育医療センター調査、首都圏ふたごプロジェクト調査との比較も可能

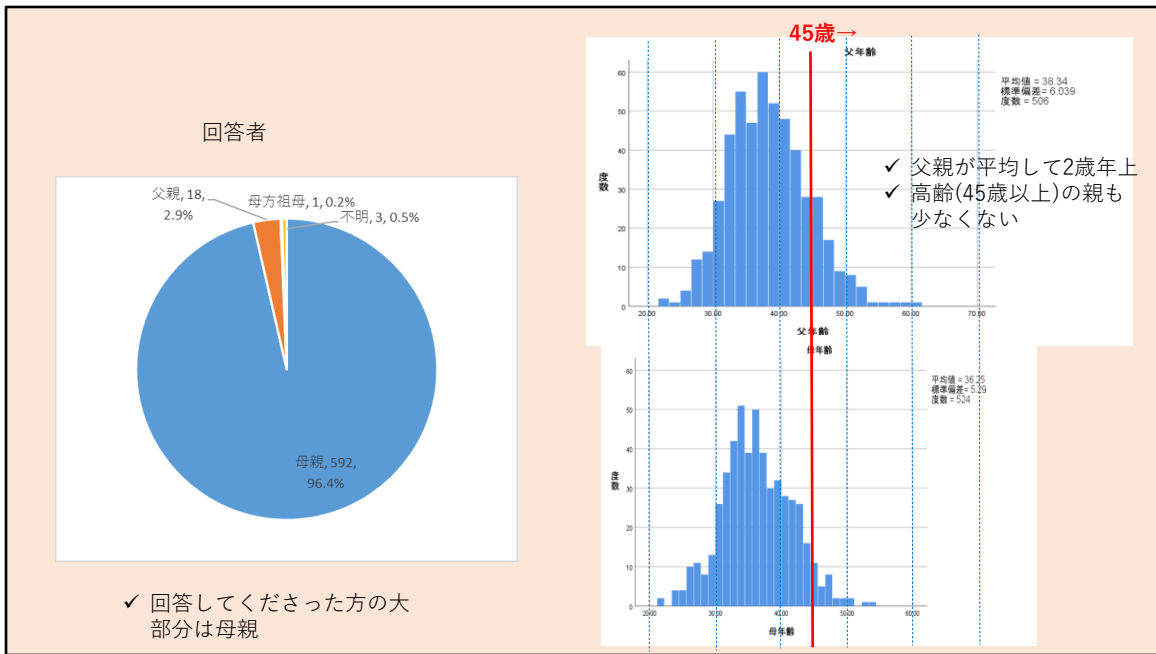
調査項目は全部で100項目を超える多岐にわたるものでした。科学的な精度を確かなものにするため、この調査の結果をふたごでない単胎児と比較したり、同じふたごでもコロナ前の状況と比較することができるように、信頼できる先行研究で用いられた項目をできるだけ取り入れて調査設計を行いました。

## 地域別回答数

回答件数=614件

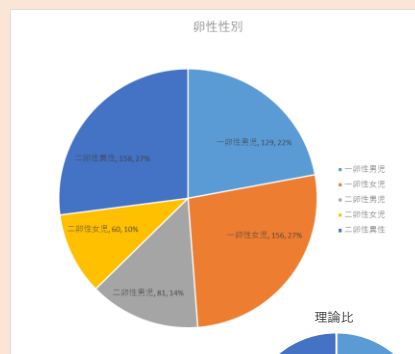
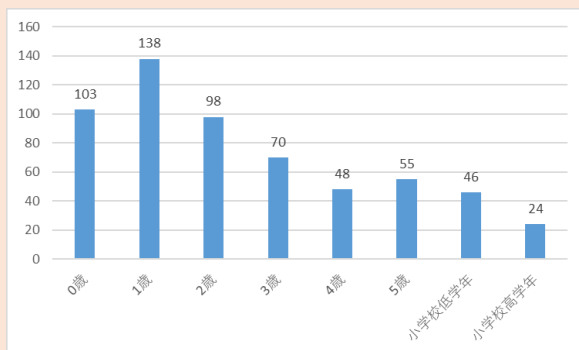


おかげさまで全国から600件以上の回答が寄せられました。その分布を見ると地域に偏りがあり、かならずしも全国が多胎児人口を代表するものとはいえないことも確かでしたが、それでもこの規模の調査は前例がなく、貴重な現状把握の資料とみなすことができます。

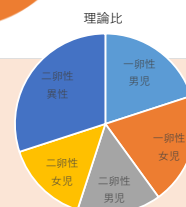


回答者の圧倒的多数は母親でした。高齢出産も少なからずいらっしゃいました。

## 子どもの年齢と卵性・性別



✓ 二卵性がやや少ない



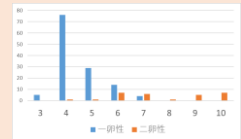
ふたごの卵性・性別分布はおおむね理論値からの偏りが無いものの、やや二卵性双生児が少ない傾向があります。これは双生児調査では一般にしばしば見られることです。一卵性のほうがふたごとしてのアイデンティティを抱きやすい傾向があるようです。

# 卵性の認識のズレ

✓ 卵性を誤って認識している人が  
少なくない

		親の認識する卵性						合計
		確かに 一卵性	確かに 二卵性	たぶん 一卵性	たぶん 二卵性	わから ない	異性	
卵性診断 項目によ る卵性	一卵性(5点以下)	138	25	23	11	4	0	201
	二卵性(8点以上)	8	83	5	8	0	0	104
	一卵性?(6点)	36	38	18	11	0	0	103
	二卵性?(7点)	10	21	1	8	0	0	40
	異性	0	0	0	0	0	166	166
合計		192	167	47	38	4	166	614
		卵性診断項目と親の認識にずれのあるもの					61	9.9%

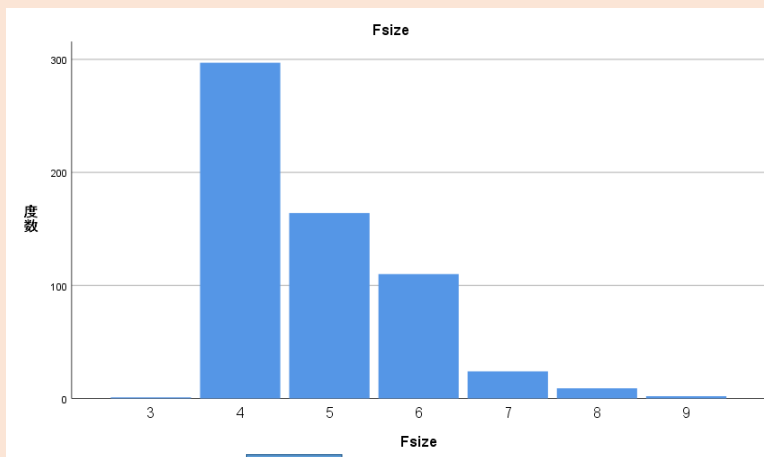
- I. ふたごのおさんは、現在「うりふたつ」のようによく似ていますか。
  1. 「うりふたつ」のようによく似ています
  2. ふつうの兄弟姉妹くらいに似ています
  3. まったく似ていません
- II. ふたごのおさんは、現在まちがえられることがありますか。
  1. とてもよくまちがえられます
  2. 時々、まちがえられます
  3. まちがえられません
- III. まちがえられる場合、誰からまちがえられますか
  1. ふたごの両親
  2. 親戚や近所の人たちや学校の先生
  3. その他の見知らぬ人たち
  4. 誰からもまちがえられない



大木・山田・浅香 (1991)

これは直接コロナ禍とは関係ありませんが、ご家庭で認識されている卵性(一卵性か二卵性か)と、アンケートの卵性診断項目から推定される卵性(95%の信頼性が認められています)との間が異なっているものが1割ほどいらっしゃいました。正確な卵性は遺伝子を調べないとわかりませんが、特に本当は一卵性なのに二卵性と認識されているご家庭が多い傾向は一般に認められることです。

## 家族構成 1 母親とふたごを含む家族人数



最も多いご家庭の構成は御両親とふたごのお子さんの4人からなるご家庭でした。

## 家族構成 3 同居する祖父母

パターン	家庭数
祖父母なし	551
祖母一人のみ	17
祖母二人	1
祖父一人のみ	2
祖父二人	0
祖母一人・祖父一人	33
祖母二人・祖父一人	2
祖母二人・祖父二人	1

母親の育児をサポートしてくれる祖父母のいる家庭はすくない。



## 家族構成 2 同居するパートナー・きょうだい (607家庭中)

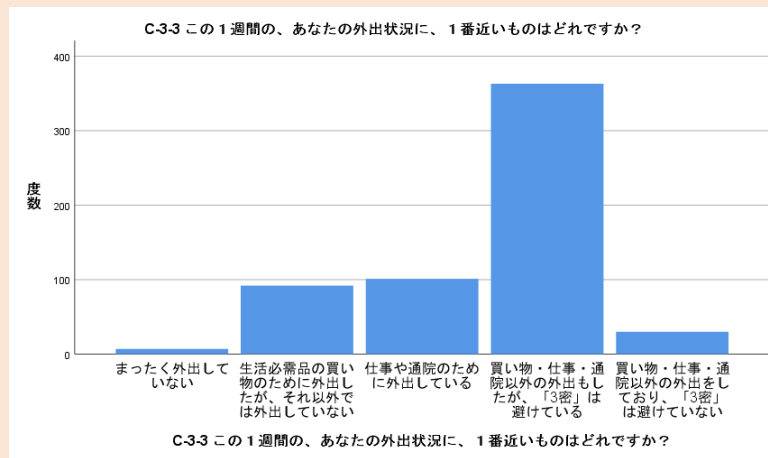
□ひとり親 32家庭 (5.2%) うち父親一人は1家庭

□きょうだい構成

		弟・妹の人数			合計	
		0	1	2		
兄・姉の人数	0	度数	315	20	5	340
		%	51.90%	3.30%	0.80%	56.00%
	1	度数	152	61	0	213
		%	25.00%	10.00%	0.00%	35.10%
	2	度数	42	7	0	49
		%	6.90%	1.20%	0.00%	8.10%
	3	度数	2	3	0	5
		%	0.30%	0.50%	0.00%	0.80%
合計	度数	511	91	5	607	
	%	84.20%	15.00%	0.80%	100%	

一人親のご家庭も5%ほどいらっしゃいました。

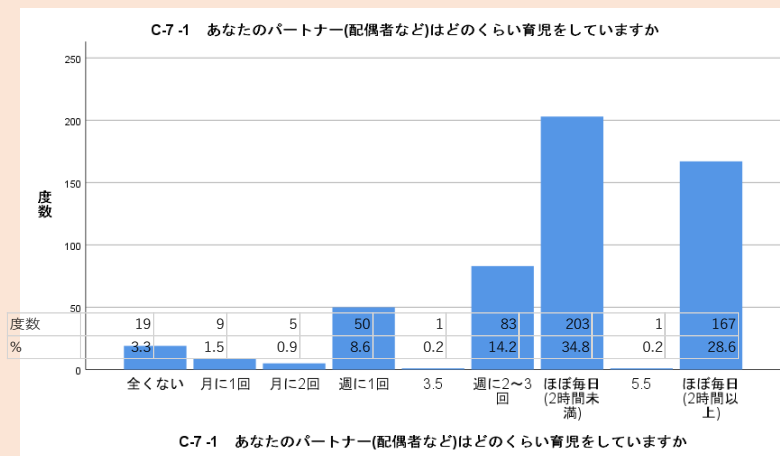
## 外出状況



度数	7	92	101	363	30
%	1.1	15	16.4	59.1	4.9

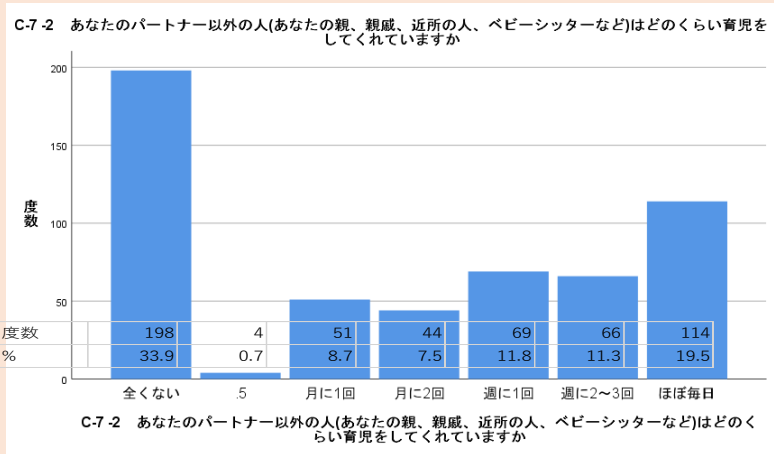
6割の家庭で3密を避けながら注意して外出していたことがわかる。

## パートナーの育児参加



ほぼ毎日育児に参加するパートナーが大多数のようです。

## パートナー以外の人(あなたの親、親戚、近所の人、ベビーシッターなど)の育児参加

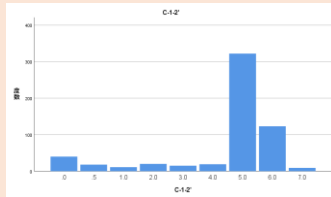


パートナー以外の育児もありますが、半数程度です。

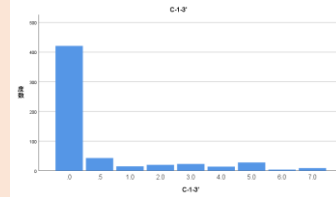
## 両親の職場(家庭外)と在宅の日数

父親

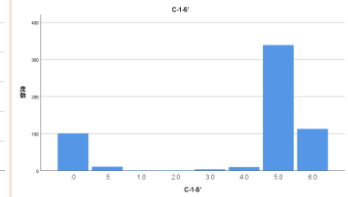
職場仕事日数(現在)



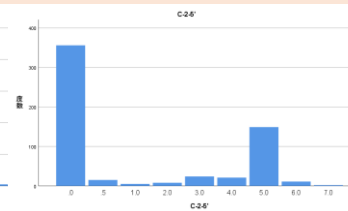
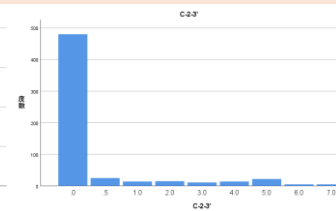
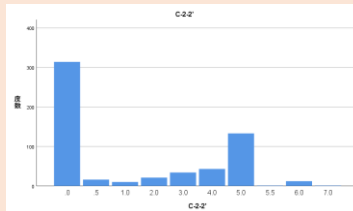
在宅仕事日数(現在)



職場仕事日数(以前)



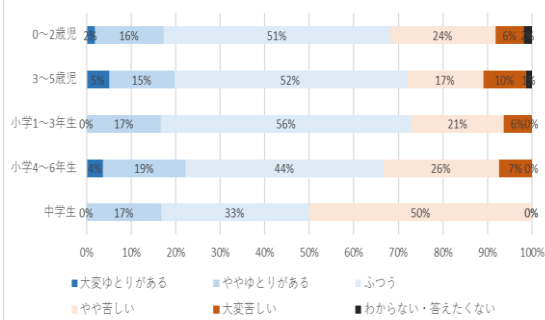
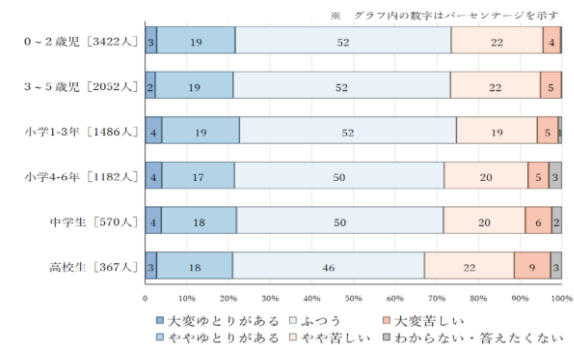
母親



職場が在宅か家庭外か、その日数はコロナ以前とコロナ後で大きな変化はありませんでした。

## 現在の経済状況 (成育データとの比較)

現在のあなたの家庭の暮らし（経済状況）について、1番近いものはどれですか？



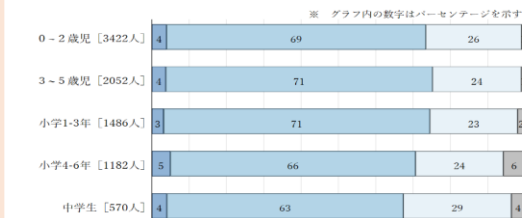
成育医療センター

✓ 0～5歳児で、「大変苦しい」の割合がふたご家庭が多い。

現在の経済状況(経済的ゆとりがどの程度あるか)を単胎児家庭の対象とした成育医療センターのデータ(左図)と比較しますと、5歳以下において、「大変苦しい」の割合がふたご家庭のほうが多いことが気になります。

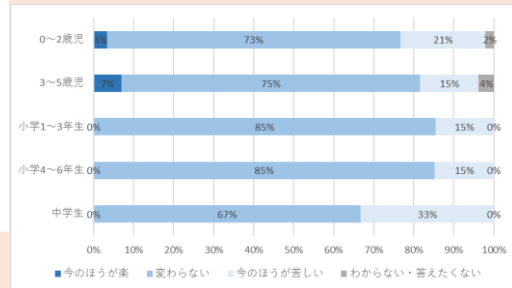
## 経済状況の変化 (成育データとの比較)

あなたの家庭の暮らし（経済状況）は、2020年1月時点と比べて、どうですか？



成育医療センター

- 今の方が楽
- 今の方が苦しい
- 変わらない
- わからない・答えたくない



✓ これも単胎児家庭と大きな違いは見られない

コロナ前後での経済状況の変化を見ると、大半は「変わらない」と答えているものの、「今の方が苦しい」と答えた割合はむしろ単胎児より少ないようです。